

薬剤師確保対策について

1 現状

- 病院薬剤師には病棟薬剤業務、チーム医療及び医師等からのタスク・シフティング等、薬局薬剤師には在宅医療及び高度薬学管理等の更なる充実が求められている。
- 全国の薬剤師総数は、今後10年間は需要と供給が同程度で推移すると推計されており、4つの薬剤師養成大学が立地する本県の医療施設・薬局に従事する人口10万人対薬剤師数は全国上位に位置している。

区分	医療施設・薬局に従事する薬剤師数(令和6年)		
	薬剤師数		人口10万人対
広島県	6,285人	医療施設 1,582人	231.6人 (全国5位)
		薬局 4,703人	
全国	260,727人	医療施設 63,290人	210.6人
		薬局 197,437人	

厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」

- 一方で、医師等と同様に薬剤師の従事先には地域偏在及び業態偏在があり、新たに導入された薬剤師偏在指標(1.00＝需要と供給のバランスが取れている状態)では、本県は「病院薬剤師少数都道府県」に位置づけられている。

区分	薬剤師偏在指標	
	病院薬剤師	薬局薬剤師
広島県	0.81(全国15位)	1.19(全国3位)
全国	0.80	1.08

- 第8次医療計画に、地域の実情に応じた薬剤師確保対策を盛り込み、取組を推進していくこととされている。(本県においても、広島県保健医療計画に薬剤師確保計画を明記)

2 検討体制

「広島県薬剤師確保のための調査・検討協議会」(「広島県薬剤師確保対策協議会」)を設置

(令和5年度:厚生労働省委託事業、

令和6～7年度:地域医療介護総合確保基金を活用)

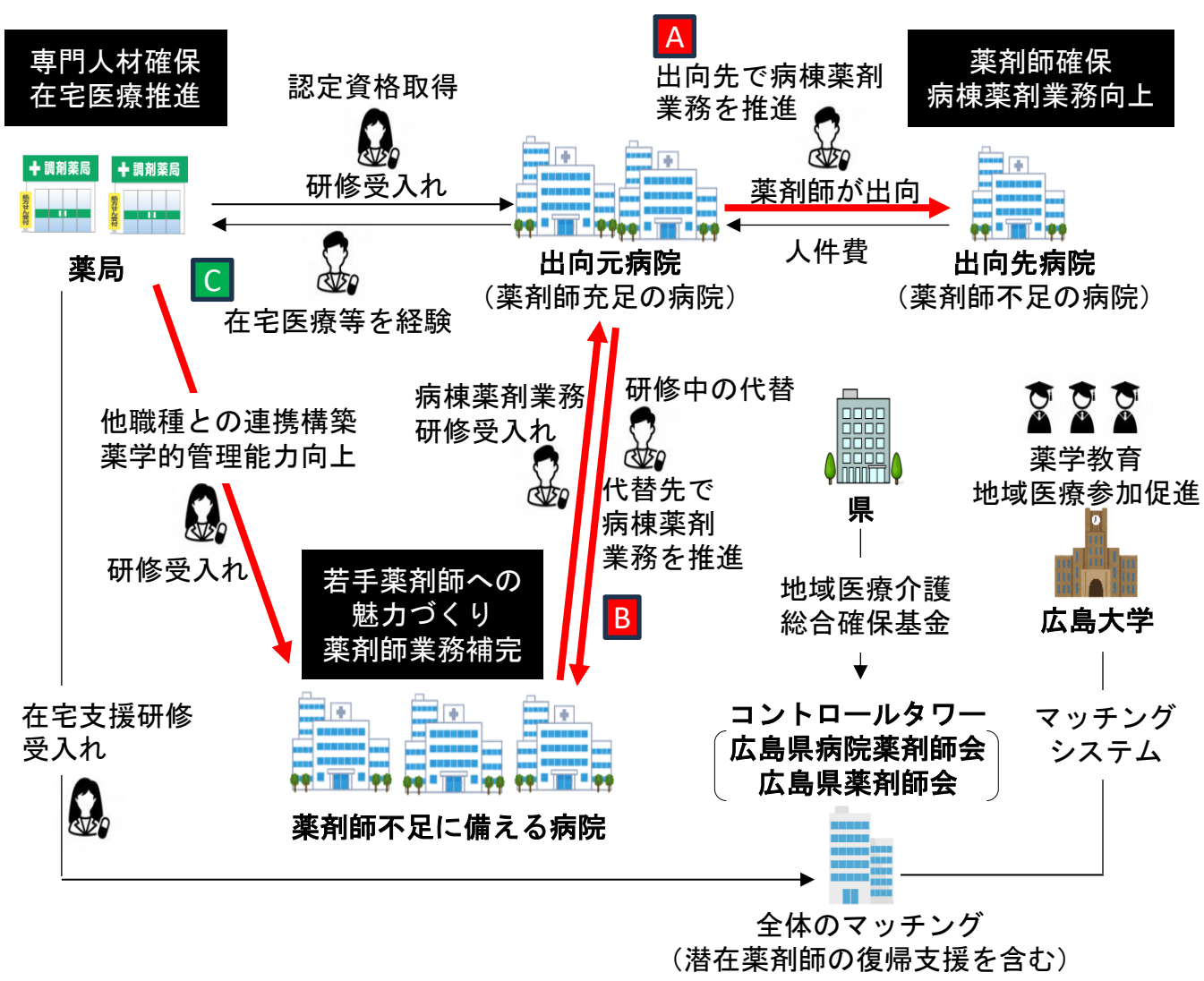
協議会委員(令和7年度)

関係団体	県病院薬剤師会 会長 松尾裕彰
	県薬剤師会 会長 豊見雅文
	県病院協会 常任理事 中西敏夫
有識者	広島大学大学院 教授 合田光寛
医療機関	広島大学病院 副薬剤部長 佐伯康之
	県立広島病院 副院長 山口浩央
行政	県薬務課 課長 岡田史恵

協議内容(令和7年度)

1	コントロールタワー(継続的な運営体制)の確立
2	病院薬剤師の出向事業の実施・評価
3	病院薬剤師の交流研修事業の実施・評価
4	地域の病院と薬局が薬剤師業務を相互に補完し合う研修(薬局薬剤師病院臨床薬剤業務研修支援事業)の実施・評価
5	薬剤師業務の情報発信の強化

3 本県の薬剤師確保体制(目指す姿)





【施策の方向】

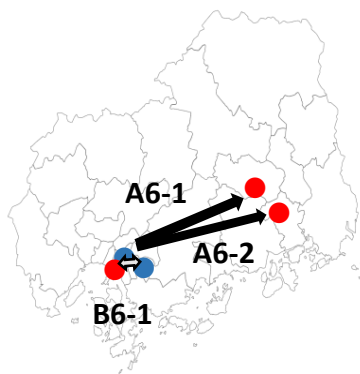
- 病院間の人材交流(出向A、交流研修B)により、ノウハウの共有やOJTによる病棟薬剤業務の充実化を図る。
- 地域の病院と薬局が薬剤師業務を相互に補完し合う連携体制を構築する(C)。
- 広島大学と連携して、各病院の魅力や求人情報を一元的に発信し、採用調整を行うことにより、採用活動と病院薬剤師の活躍支援を強化する。
- 広島大学においては薬学教育拠点として、中学生・高校生から大学生までをシームレスに教育し、地域医療を自らの課題として考える力を培い、U・Iターンの促進を図る。
- 広島県薬剤師会と連携して、潜在薬剤師を掘り起こし、復帰支援のための研修を実施する。

薬剤師偏在の解消・地域の医薬品提供体制の確立

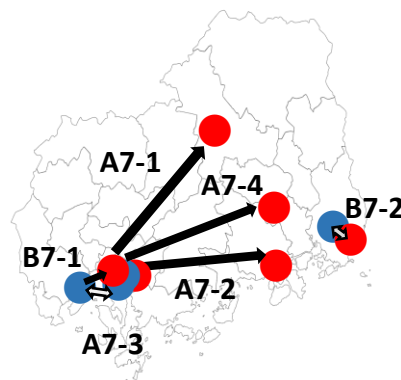
4 病院薬剤師出向事業 **A**、病院薬剤師交流研修事業 **B**

- 病院薬剤師出向事業は、地域における病院薬剤師の安定的な確保を目的として、薬剤師が不足している地域の病院（出向先病院）に対して、薬剤師が充足している基幹病院等（出向元病院）から薬剤師が出向し、人員を確保するとともに、病棟薬剤業務の充実化を図ることにより、魅力ある環境づくり及び負の連鎖を断ち切って継続的で安定した雇用につなげるもの。
- 病院薬剤師交流研修事業は、将来的に薬剤師不足の懸念のある病院の薬剤師が、薬剤師が充足している基幹病院等において病棟薬剤業務に係る研修を受講するとともに、研修期間中には薬剤師が充足している基幹病院等から病棟薬剤業務を推進する代替要員の派遣を受けることにより、研修中の人員減を相殺しながら魅力ある環境づくりを行うもの。

-  出向事業（実施期間：原則3か月間）
 交流研修事業（実施期間：原則1か月間）



	出向元病院	出向先病院	年度
A5-1	広島大学病院	公立みつぎ総合病院	R5
A6-1	広島大学病院	公立世羅中央病院	R6
	薬剤師充足の病院	薬剤師不足に備える病院	年度
B6-1	県立広島病院	瀬野川病院	R6



実施施設増
実施地域拡大

※広島大学病院から世羅中央病院への出向は現在も継続中（基金は非充当）

	出向元病院	出向先病院
A7-1	広島大学病院	三次地区医療センター
A7-2	県立広島病院	三原城町病院
A7-3	JA広島総合病院	瀬野川病院
A7-4	広島大学病院	公立世羅中央病院※
	薬剤師充足の病院	薬剤師不足に備える病院
B7-1	JA広島総合病院	土谷総合病院
B7-2	寺岡記念病院	脳神経センター大田記念病院

出向元病院: 薬剤業務向上加算の算定要件の一部(地域の医療機関への出向体制)を満たす(2024年の診療報酬改定において新設)

A 病院薬剤師出向事業

出向期間：約3か月間
(令和5年11月7日～令和6年1月31日)
フォローアップ：1週間
(令和6年9月2日～9月6日)

出向薬剤師：
1人(30代)

【出向元】



広島大学病院 (広島市)

出向薬剤師：
1人(40代)

出向期間：約3か月間
(令和6年9月17日～12月13日)

県事業終了後も、出向継続中：
1人(30代)

【出向元】薬剤業務向上加算の算定要件の一部
(地域の医療機関への出向体制)を満たす
(2024年の診療報酬改定において新設)

【出向先】
公立みつぎ総合病院 (尾道市)

240床
(一般145、療養95)
21診療科、薬剤師数8人



【出向先】
公立世羅中央病院 (世羅町)

155床
(一般69、地域包括ケア86)
14診療科、薬剤師数3.5人



出向先での主な対応

- ・薬剤管理指導体制を強化
(担当薬剤師の配置手順策定)
⇒指導件数：2～4割増、算定率：7%増
- ・病棟薬剤業務の充実に向けた準備
(業務フロー・日誌作成、事例収集)
- ・若手薬剤師を教育
(資格取得・学会発表支援)
- ・多職種連携を強化
(院内他職種・薬局への研修実施)
- ・薬学生の認知度の向上
(薬剤部の紹介パンフレットの作成)

出向元におけるメリット

- ・出向経験者のスキルアップ
- ・高度急性期施設では得られない地域医療を俯瞰する視野を持った人材を育成

出向先での主な対応

- ・業務全般における課題を抽出し、具体的な業務改善を実施
- ・調剤・化学療法業務の安全性向上への取組
(監査方法の見直し・調剤ミス防止策の提案)
- ・薬剤管理指導体制を強化
(記録標準化のためのひな形の作成・病棟業務支援システムを活用した薬剤情報提供書の作成)
⇒指導件数：9割増

2名の
新卒薬剤師入職
(令和7年度)

B 病院薬剤師交流研修事業

県立広島病院（広島市）



712床、17病棟、薬剤師数43人

< 専門薬剤師等認定取得状況 >

〔 がん専門療法認定／専門、外来がん治療認定、
緩和薬物療法認定、抗菌化学療法認定、
NST専門療法士、ICD、HIV感染症薬物療法認定 〕

県立広島病院における研修・業務内容

< 出張先特有の業務経験 >

- ・各病棟を訪問し、様々な症例を経験
- ・多職種連携（各種チーム医療への参加）
- ・業務効率化のための各種システムを体験

< 出張元での経験を生かした業務を実施 >

- ・精神科領域の治療薬に関する情報提供・疑義照会を実施
- ・依存症治療に係るコミュニケーションスキルを紹介

受入れ側のメリット

- ・業務意欲の向上（資格取得への意欲を持つような環境の醸成）

送り出し側のメリット

- ・出張経験者のスキルアップ
- ・業務改善のアイデアを出張先から入手

薬剤師充足の病院
薬剤師不足に備える病院

出張薬剤師：1人（30代）



出張薬剤師：1人（40代）

出張期間：約1か月間

（令和6年11月5日～令和6年11月29日）

瀬野川病院（広島市）



312床、6病棟、薬剤師数5人

< 専門薬剤師等認定取得状況 >

〔 精神科薬物療法認定／専門 〕

瀬野川病院における研修・業務内容

< 出張先特有の業務経験 >

- ・在宅の薬剤指導に参加
- ・回復期・維持期における薬剤師業務を経験
- ・精神科特有のプログラムへの参加・症例の経験
- ・薬剤師から薬剤師以外の者へのタスクシフトの取組を体験

< 出張元での経験を生かした業務を実施 >

- ・病棟業務の充実化に寄与

受入れ側のメリット

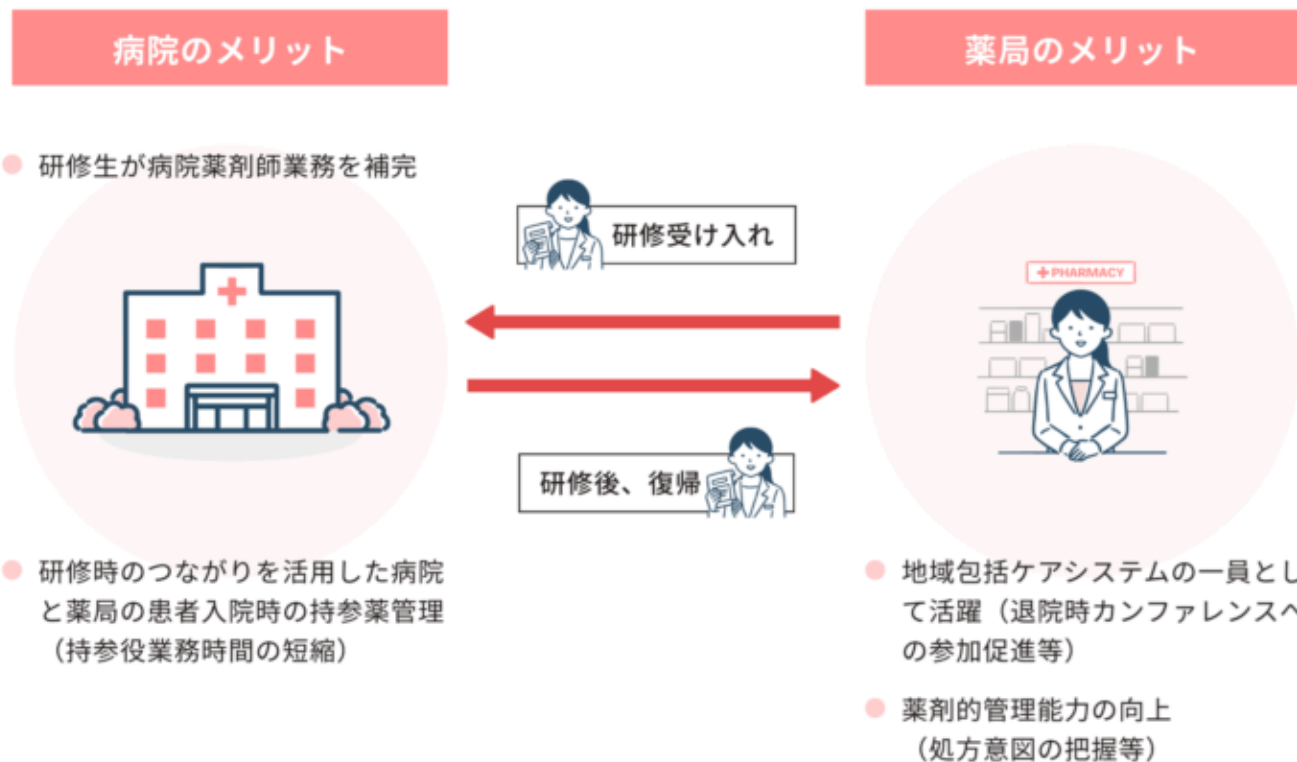
- ・業務意欲の向上

送り出し側のメリット

- ・出張経験者のスキルアップ
- ・シームレスな薬物治療に貢献できる人材の育成

C 薬局薬剤師病院臨床薬剤業務研修事業

地域の病院と薬局が薬剤師業務を相互に補完し合うことを目的として、病院が薬局薬剤師の研修生を受け入れる取組



R6年度

モデル事業実施

< 研修期間 >

10日間 (12月以降～2月)

< 参加施設 >

瀬野川病院 (広島市) ← あが中央薬局 (呉市)

長崎病院 (広島市) ← オール薬局舟入店 (広島市)

公立みつぎ総合病院 (尾道市) ← かなえ薬局 (東広島市)

吉島病院 (広島市) ← オール薬局堺町店 (広島市)

R7年度

R6年度の実施結果
を踏まえ
事業の見直し

R8年度

再度モデル事業
実施予定

5 薬剤師業務の情報発信の強化

薬剤師の活躍支援のための情報発信

① マッチングシステム <https://hirodai-p.jp/>



広島大学薬学部が開発する病院・学生・薬剤師を結ぶ「ヒロダイマッチングシステム」を活用して、病院・薬局等の魅力を登録し、一元的に発信。(R6.8~)

《登録できる情報》
施設見学等のイベント情報、施設の概要、求める人材(像)、業務の内容、教育体制、研修体制施設の特徴紹介、福利厚生 など

② 薬剤師の業務内容が分かるインタビュー動画の制作



病院薬剤師へのインタビュー及び病院薬剤師の勤務の様子を1分30秒にまとめた動画を制作。

※YouTube 広島県公式チャンネルに掲載
<https://www.youtube.com/embed/hU4QI04i0gY>

③ 特設サイトの開設 <https://sap.hiroyaku.or.jp/>



広島県で薬剤師として働く魅力を発信する特設サイトを開設しており、病院薬剤師出向支援事業等の取組、薬剤師確保に関する講演会や合同説明会の開催等を発信。(R7.6~)



合同説明会の実施・参加

① 県主催の病院合同説明会の実施

県内初の取組として、県内外の薬学生・薬剤師を対象とした病院合同説明会をオンラインで開催。

実施日：R7.7.12(土)
方法：オンライン開催
(Zoomミーティング)
参加者：県内22病院、
薬学生等46名

参加者からの意見：

学生：病院の説明を聞く機会が少なく、薬局側に気持ちが傾いていた。病院薬剤師について考える機会にもなったので、こういう機会を増やして欲しい。
病院：採用活動に対する意識が向上した。

② マイナビ就職セミナーに出展

薬局及び病院がブース出展する合同説明会で、県内複数の病院薬剤師を講師として招聘し、病院薬剤師の魅力をアピール。

実施日：<R6年度>R7.3.9(日)
<R7年度>R8.2.8(日)
方法：対面
参加者：<R6年度>薬学生35名
(内、講演聴講者15名)
<R7年度>薬学生32名
(内、講演聴講者11名)

要予約
6/30迄 薬学生・薬剤師のための

広島県病院 合同説明会

令和7年 7/12(土)
13:00~16:40

オンライン開催

30分×5チームで病院とお話＆質疑応答
3チームは希望する病院のブースに、2チームは出身地等から振り分けられたブースに参加していただき、広島県内の様々な病院のお話が聞けます！

参加予定病院等(二次医療圏ごと・五十音順)

- <広島> 県立広島病院、済生会広島病院、瀬野川病院、広島市立広島市民病院、広島市立北部医療センター安佐市民病院、広島第一病院、広島大学病院、山崎病院
- <広島西> アマノリハビリテーション病院、広島総合病院
- <呉> 呉共済病院、呉市医師会病院、呉中通病院、中国労災病院、マツダ・ホルンリハビリテーション病院
- <尾三> 尾道総合病院、三原城町病院
- <福山> 脳神経センター大田記念病院、福山第一病院
- <備前> 市立三次中央病院、三次地区医療センター
- <広島域> 独立行政法人国立病院機構 中国四国グループ

お申込みは次のURLまたはQRコードより(6/30まで)
https://apply.e-tumo.jp/pref-hiroshima-u/offer/offerList_detail?tempSeq=23861

主催 広島県 共催 (一社)広島県病院薬剤師会・(公社)広島県薬剤師会・(一社)広島県病院協会
お問合せ 広島県健康福祉局薬務課 TEL 082-513-3222 E-mail fuyakuma@pref.hiroshima.lg.jp

